

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-293620

(43)公開日 平成11年(1999)10月26日

(51)Int.Cl.⁶

E 0 1 C 19/20

識別記号

F I

E 0 1 C 19/20

審査請求 未請求 請求項の数1 書面 (全2頁)

(21)出願番号 特願平10-137343

(22)出願日 平成10年(1998)4月10日

(71)出願人 591229509

竹原 不二雄

鹿児島県阿久根市脇本7320番地5

(72)発明者 竹原 不二雄

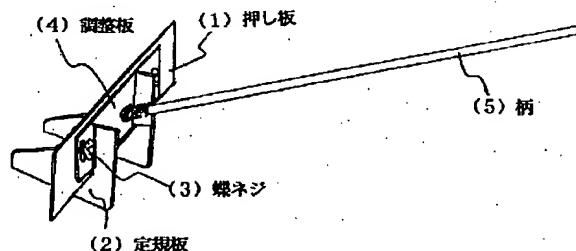
鹿児島県阿久根市脇本7320番地5

(54)【発明の名称】 定規付き舗設レーキ

(57)【要約】

【課題】アスファルト舗装に際して人力敷均しの方法が従来のレーキは金属板に柄を付けただけのもので勘によって仕上げるもので厚さも仕上がりも不確実であったことに対して厚さ調整付きの定規を装着して施行の正確さと能率向上を安価に提供するものである。

【解決手段】押し板・定規板・蝶ネジ・調整板・柄 以上を組み立ててセットにしたレーキ



【特許請求の範囲】

【請求項1】 アスファルト舗設の際に人力によって敷き均すのに任意の厚さに調整できる定規を備えた舗設レーキ

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明はアスファルト舗装に際し機械の使用出来ない部分を人力による敷均しに使用するレーキに関する分野である

【0002】

【従来の技術】 従来のレーキは1枚の押し板に直角に柄を付けたもので長い間使われて来て便利なものであるが敷き均す厚さについては勘に頼るしかなくかなり広く舗設する場合は厚さが不安定であり無駄も生じるという状態であった

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 従来のレーキによっての敷均しでは厚さが一定にすることがむづかしく仕上がりを目視によって判断するしかなく厚さを正確にする方法が必要であった

【0004】

【課題を解決するための手段】 この問題に対して本発明は厚さを一定にするためにレーキに定規を付けることを考えた図によって説明すると押し板(1)にボルトを付けて調整板(4)に重ねて蝶ネジで締める。調整板(4)には押し板(1)を上下にスライド出来るようにネジ穴を縦長に設ける。さらに調整板に定規板を固定して一体とし路盤面を前後にすべる形となる。そして調整板の中央部に柄を取り付ける

【0005】

【0006】

【実施例】 技術の発達によって機械の進歩も高度になっているけれども大面積の舗装は機械によってなされるがそれでも人力による敷均しは必ず付随するものである。本発明の使用によって施行の正確さと無駄を省くことが出来る

【0007】

【発明の効果】 このように舗設の機械は進歩しているけれども人力による敷均しの方法は依然として昔のままのやり方である。本発明の使用によって施行の品質は上がり能率は向上して業界に寄与することになる

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の構造斜視図である

【図2】 従来のレーキである

【符号の説明】

(1) は 押し板

(2) は 定規板

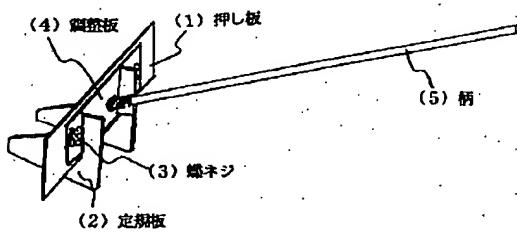
(3) は 蝶ネジ

(4) は 調整板

(5) は 柄

*30

【図1】



【図2】

